学生主導型Interprofessional Education(IPE)の実践の効果に関する調査

峯　昌啓　　野村真里*　　岡本左和子　　今村知明
奈良県立医科大学健康政策医学講座
*奈良県立医科大学付属病院

背 景

- ➢2025年問題
  - 10年後をめどに団塊の世代が75歳以上になる。
  - 医療・介護の複合的ニーズを抱えた患者が急増する。
  - 医療や介護、在宅医療の体制整備が必要。
- ➢病床機能整理、再分配
- ➢地域包括ケア
  - 課題：在宅医療に関わる多職種連携のトレーニングが遅れている。

研 究 目 的

- ➢ 医療・介護・福祉サービスの提供の主体となる多職種の学生が主導して実践したIPE（多職種連携教育）の効果を検討する。

① Interprofessional working（IPW：多職種連携）を実践する準備となるか。
② IPWを実践する志向性を向上させるか。
③ IPEを実施した地域で働く動機づけとなるか。

という観点から評価する。

方 法 1： IPEの実行内容

- ➢ 多職種の学生が主導して勉強会・実習内容を企画し、IPE を実践する。
  - 現在の学生は、10年後、医療・介護・福祉のサービスの提供の主体となる者たちである。

＜内容概略＞

- 年11回の勉強会と年2回の多職種合同実習を行う。
- 運営を学生主体で行い、実施する。
- 勉強会の企画を各職種の学生（医学、看護学、介護学、福祉学、薬学、心理学など）が各回を順番に担当し行う。
- 現場で働く多職種に勉強会に参加してもらい、現場の声を聞いて実際の問題を知り、課題を見出す。

方 法 2

調査期間： 2016年4月から9月

調査方法： アンケート調査

調査ポイント： 勉強会が始まる前と勉強会を何度か経験し、地域に入って実習もした後でアンケート調査を実施する

調査対象： 平成28年度奈良県事業「奈良の将来の医療と介護をつくる多職種学生の集い」に有志で参加した学生
（主に企画に関わる学生29名：29名 ×11回＋2回＝377名）

方 法 3

調査項目：

- 参加学生の基本属性：出身地、現在の専攻科目、将来希望する職種
- 参加回数
- IPEの質問票Readiness for Interprofessional Learning Scale(RIPLS)の日本語訳17項目（IPEの効果の尺度として世界的に普及している）
- 「IPWの必要性の理解」「チームワークに取り組む姿勢」「専門性の理解　について」の3因子構造
- 将来奈良で専門職として働くことへの志向性に関する4項目
- 9月時点で、本企画に参加しての自己評価を自由記述

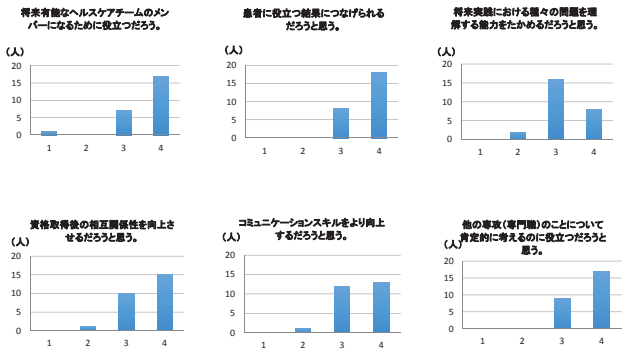
結 果

勉強会参加前の調査

- 有効回答数：26人（90%）
- RIPLSの17項目（最高スコア68）の平均値: 58.8（得点率86.5%）
- 将来奈良で専門職として働くことへの志向性に関する4項目（最高スコア16）の平均値: 13.0（得点率81.3%）
- 平均値が3（4段階の評価の内、肯定的な評価は3から）を下回った項目：
  「実践的解決能力は、自己の専攻の中でこそ学習することができる」
  「自分の専攻では、他の専攻の学生よりもっと多くの知識やスキルを習得しなければならない」
  のみ
  平均値各々2.85と2.96

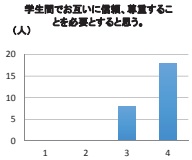
結 果1　勉強会参加前の調査　有効回答数：26人（90%）

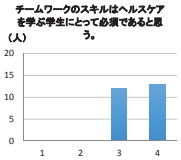
RIPLS　17項目
他専攻の学生と共に共同学習することは

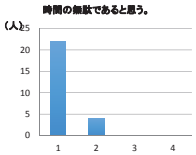


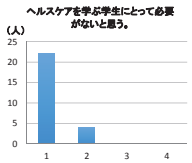
結　果2　勉強会参加前の調査　有効回答数：26人（90%）

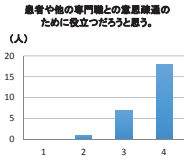
RIPLS　17項目
他専攻の学生と共に共同学習することは

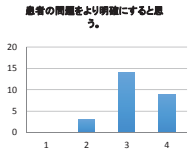






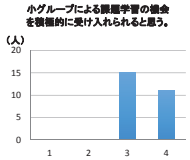


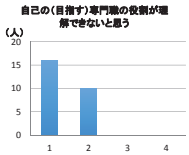


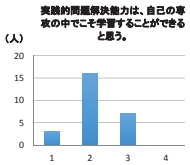


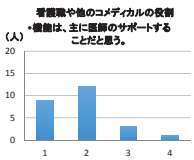
結　果3　勉強会参加前の調査　有効回答数：26人（90%）

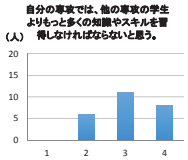
RIPLS　17項目
他専攻の学生と共に共同学習することは





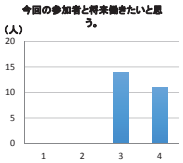


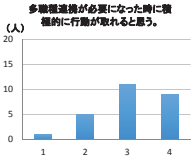


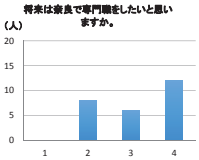


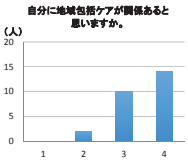
結　果4　勉強会参加前の調査　有効回答数：26人（90%）

将来奈良で専門職として働くことへの志向性に関する4項目









考 察・結 論

- IPEを受ける前のアンケートの結果（2016年４月）：
  - IPWの重要性は概ね理解できていると考えられた。
  - 実際の連携での問題点や学習の課題などを具体的に理解できているかは疑問である。
    - 「患者の問題をより明確にできるか」
    - 「実践的問題解決能力は、自己の専攻の中でこそ学習することができる」
    - 「自分の専攻では、他の専攻の学生よりもっと多くの知識やスキルを習得しなければならない」
    - 上記の回答についてばらつきが認められた。
  - 現場の他職種連携で行動がとれるかについては現実味がない。
  - 奈良県内で将来働くことに対しても、現時点ではモチベーションが高いとはいえない。

Limitations:

- 調査対象数が少ない。
- 本プロジェクトに参加した学生は、基本的にIPWについて非常に関心が高いと考えられる。
- RIPLSの質問項目は、倫理的に否定的な回答をしづらい。

今後の研究予定

- 勉強会5回と実習後の9月にアンケートを実施する。
  - 「医療・介護の現場での多職種連携での課題となっていること」を自由記述してもらう。
  - IPWで何が役立つのかを検討する。
  - 奈良県での地域医療に関心が強くなるかどうかを検討する。
  - RIPLSの評価尺度が日本で利用する際の問題点と改良点を検討する。

2回目アンケートの内容（2016年9月）

- RIPLSの17項目と将来奈良で専門職として働くことへの志向性に関する4項目を調査。
- 9月までの回答者の勉強会参加回数と実習への参加有無を調査項目に追加⇒それらの結果とアンケートの点数との相関を分析。
- 9月時点での本企画に参加した後の自己評価を自由記述してもらう⇒テキストマイニングで分析予定。

ご清聴ありがとうございました。